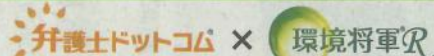


循環経済新聞

The Recycling Economy Times

電子契約なら
JEMSにお任せを!



JEMS 環境将軍 0120-857-493 JEMS

太陽光パネルRを開始

完全再資源化も視野に

近畿電電輸送

NTTグループの協力を会社として物流やリサイクルを展開する長、072・823



八幡リサイクルセンタに導入した「ReSola」5)は、太陽光パネルの循環ビジネスに取り組み、3月にリサイクル設備を整備して中間処理事業

を開始。来年度にはリユースに向けた、パネル検査事業も立ち上げ、回収資源を完全リサイクルする体制も整えて、太陽光パネルの循環にトータルで対応したいと考えた。(関連記事3面)

太陽光パネルリサイクル設備は、同社八幡リサイクルセンタ(京都府八幡市)に整備。環境装置メーカーの近畿工業(神戸市)が開発した自動リサイクル装置「ReSola(リン)」による処理で、使用済み太陽光パネルを

してきた。物流事業のなかで産廃の収集運搬なども担っており、廃棄コンクリート電柱のリサイクルなど、環境分野へも事業を拡大している。昨今の自然災害の頻発と被災パネルの処理ニーズの高まり、また今後の大量廃棄を見据えて、収集運搬だけでなく再資源化まで自社で行うべく、太陽光パネルリサイクルに取り組みすることとした。

事業の開始以来多くの引き合いがあり、平均して月間約200枚のパネルを扱っているという。同社取締役の藤崎氏は「太陽光パネルのリサイクルは今後の社会課題。環境を大切に企業として取り組み、ビジネスとして成り立つ形を構築することが重要だ。当社がリサイクルのリーダーシップを發揮し、トータルでの環境保全に貢献できるようチャレンジしていきたい」と抱負を語った。

ケニアで現地調査開始

トベ商事など6社

PETボトル再資源化の案件化

トベ商事(本社・東京、戸部昇社長、05902・320)を始めとする6社は8月22日、ケニア・ナイロビ地域での使用済みPETボトル再資源化に関する第1回現地調査を行い、9月11日に帰国報告会を

行った。今回では一部の使用済みPETボトルが回収され、破砕片(フレーク)に加工して輸出されているが、国内リサイクルシステムや事業の高度化は今後の課題であることがわかった。

今回の現地調査は、

リサイクル

大型の機械式選別機を導入

RPF生産や廃プラ増に対応

産廃・一廃、建物解体、同社の袋井工場に大量物・重量物・細粒物の3種類を選別する。

導入した機械式選別機



ル率を目指す。昨年からはじめた中国の環境規制で、廃プラや紙くずの輸出が困難な状況に

料利用が困難な廃プラ、紙くず、繊維くず等の可燃系廃棄物を利用した固形燃料(RPF)を生産している。製造能力は、3工場合計で、日量212ト、県内最大のRPF工場

